

## 令和2年度 学校運営連絡協議会実施報告書

### 1 組織

#### (1) 南多摩学校運営連絡協議会

#### (2) 事務局の構成

経営企画室長、前期・後期課程教務部主任2名、前期課程副校長 合計4名

#### (3) 内部委員の構成

校長、前期・後期課程副校長、前期・後期課程教務部主任、後期課程生徒部主任 後期課程進路部主任、後期FW部主任、3学年主任、6学年主任 合計10名

#### (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）

学識経験者（大学・大学院教授）3名、公的機関（図書館館長）、地域事業者、近隣自治会長、同窓会担当者、PTA会長 計8名

### 2 令和2年度学校運営連絡協議会の概要

#### (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和2年 5月25日（金）開催実績なし

新型コロナウイルス感染症対策の緊急事態宣言が出されていたため

第2回 令和2年10月29日（木）内部委員10名、協議委員8名

紙面開催 協議委員委嘱・委員紹介、学校評価アンケート案の提示と協議

第3回 令和3年 2月26日（金）内部委員10名、協議委員7名

オンライン開催 学校評価アンケート集計結果報告・提言協議、教育活動報告、意見交換

#### (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和2年 5月25日（金）開催実績なし

新型コロナウイルス感染症対策の緊急事態宣言が出されていたため

第2回 令和2年10月29日（木）内部委員3名、評価委員2名

紙面開催 学校評価アンケート実施方法の検討、学校評価アンケート案作成

第3回 令和3年 2月26日（金）内部委員3名、評価委員1名

電話開催 学校評価アンケート結果提示、提言協議

### 3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

#### (1) 学校評価の観点

「学校への満足度」「学校の意欲」「学校の実践と成果」の観点で実施する。

#### (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

11月～12月 全校生徒 対象：919人 回収：857人 回収率：93%

11月～12月 保護者全員 対象：919人 回収：592人 回収率：64%

12月～1月 地域・住民 対象：150人 回収：94人 回収率：63%

11月～12月 教職員 対象：66人 回収：66人 回収率：100%

#### (3) 主な評価項目

学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、美化清掃、安全教育、地域奉仕、広報活動、国際理

## 解教育、WWL 関連、感染症対策

### (4) 評価結果の概要 (学校及び校長への意見・提言内容)

ア 今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、学校休業期間があったうえに、学校行事が実施できなかったことが、今回のアンケートに影響を与えていると考えられる。

#### イ 設問番号 1, 2, 3 のグラフについて

学校行事ができなかったことは残念だが、そのために毎日の授業が緊張感を保ちながら継続して行えたため、学校全体に対する印象や学習に対する評価は一定程度増加している。しかし、経年変化では増加していても、後期生の評価は前期生よりも低くなっている。今後の課題となる。

#### ウ 設問番号 5 のグラフについて

各教科の家庭学習のための課題の量について、肯定的回答の割合は低くなっている。これは毎年課題となっているが、今年度は休業期間や分散登校による自宅学習日があり、家庭で行う課題が多くなったことが一因となっている。また、部活動や学校行事がなかったことも、勉強ばかりしている、という意識になり、生徒の負担感につながっていると考えられる。教職員の肯定的回答の割合が今年度は増加しているが、オンライン学習と対面学習の融合を図って、各教科が家庭学習のための課題の内容や提供の仕方に工夫を凝らしていることが肯定的回答につながっていると思われる。しかし、オンラインでの課題提出など生徒にとって初めてのことであり、それがまた負担感につながっている可能性がある。後期生については、受験勉強が本格化していくと、自分のペースで学習したいという気持ちが大きくなることも原因と思われる。一方で、前期生の時にきちんと課題を行うことで、家庭学習の習慣が付き、基礎・基本が身に付いた、という後期生の声もあることは評価したい。

#### エ 設問番号 12 のグラフについて

時間管理についても、肯定的回答の割合が多くない。学習の計画を立てても思うように進まなかったりすることが、こうした回答につながっていると考えられる。経年変化で見ると今年度は肯定的回答が増加しているが、学校行事や部活動がなく通常授業が続いたため、毎日の生活のリズムが作りやすかったことも影響していると思われる。

#### オ 設問番号 18 のグラフについて

読書習慣は、後期生になると大きく減少している。これは、前期生に比べてスマートフォンを使用する頻度が高くなっていることが大きく影響していると考えられる。しかし、今年度は5割を超える後期生が肯定的に回答していることは評価できる。

#### カ 設問番号 20 のグラフについて

WWL コンソーシアム構築支援事業に対する評価は、保護者や教職員と比較して在校生の肯定的評価が低くなっている。海外、大学、企業等との先進的な取組を他校と連携、協働して行っていくことのメリットを体験させるとともに、自分自身のキャリアにつなげることができれば、

肯定的な意見も増えると思う。

#### キ 地域アンケートについて

グラフは肯定的回答の経年変化を示している。肯定的回答の数字が下がっているが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため学校公開等を一切行っていないことが原因と考えられる。引き続き、HPを頻繁に更新し、本校の教育活動を対外的にアピールしていくこと、防災活動等において、地域住民の方々との連携を深めていくこと等、本校の教育活動に対する理解を深めていただく取組を進めていく。なお、地域住民の方々のアンケート回収数が減っていることは、コロナ禍において、地域住民の方々へアンケートを依頼する工夫も必要であった。

### 4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

#### (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ア コロナ禍においても、徐々にオンライン環境を整備し、授業や家庭学習のみならず、講演会や保護者会等もオンラインで実施している本校の取組への理解が得られていることが分かる。
- イ 本校への教育活動に協力できることがあれば協力してくださる体制が出来上がっている。今後も学校評価の結果を踏まえ、速やかに改善策を実行に移していく。

#### (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ア コロナ禍においてもオンラインや動画を活用する等、様々な工夫を行い、生の本校の教育活動について協議委員をはじめ地域や社会に公開していくべきである。
- イ 評価結果の経年変化をわかりやすくとらえられるように調査項目を継続して取り扱い、さらに内容を精査していく。
- ウ コロナ禍における感染症対策の徹底の継続やオンライン等を活用したさらなる学習効果の向上を目指すとともに、時差通勤、自宅勤務、ICT活用による授業や採点の効率化を進め、教員の働き方の改善もさらに進めていく。

### 5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

#### (1) 学習・読書習慣の確立

オンラインツールやNOLTY手帳をさらに活用して、学習時間等の把握をすすめて、教科指導及び読書活動の改善に活用する。

#### (2) 地域との連携

生徒会や防災支援隊を中核として、本校の教育活動を地域の方々と協働して行い、生徒の社会貢献や地域奉仕への意欲をさらに高めさせる。

#### (3) 学校の情報発信

成果発表会のプレゼンテーションを限定動画公開したように、学校行事等生徒の教育活動をホームページに動画とするなどの取組を進め、本校の情報を発信していく。

#### (4) 学校評価の活用に関して

学校評価アンケートであがった意見を次年度の学校経営計画のどこに反映させているのか、生徒集会、保護者会や校長と語る会などを通して一層丁寧知らせていく。

## 6 コロナ禍における学校運営連絡協議会の在り方

令和2年度は、第1回は開催実績なしとなったが、第2回は紙面開催、第3回はオンライン開催を行った。協議委員の協力もあり、一定の成果をあげたと考える。来年度は、社会の状況をみながら、オンラインと対面を融合させた学校運営連絡協議の実施を模索していき、これまで以上に学校改善につなげていきたい。